

RICOH eWhiteboard  
セキュリティホワイトペーパー

Rev. 1.2

## 改版履歴

Revision	日付	改定概要	作成者
1.2	2024/07	機能変更に対応した追記と修正	
改訂内容			
1.	はじめに 1.2 用語定義で”RSI”の説明を修正		
2.	図 1 システム構成 で機能追加により用途例の線種変更		
3.	2.1.3 説明を追加		
4.	3.4.1 説明を追加		
5.	4.1.2.1 機能追加による認証方式の追記		
6.	4.3.1 機能追加による認証情報の扱いの追記		
7.	4.3.2 機能追加による全文追加		
8.	5.1.1 表 1 機能追加変更による通信先の全体的見直しと修正		
9.	5.1.1 表 2 機能追加変更によるポートと説明の見直しと修正		
10.	5.1.4.1 機能追加によるアクセス方法の追記		
11.	5.2.1 わかりやすさのためどの Web ページかを追記		
12.	5.2.2 機能追加による通信路の説明の変更		

Revision	日付	改定概要	作成者
1.1	2022/08	機能変更に対応した追記と修正	
改訂内容			改訂理由
1.	図 1 システム構成 にオンラインアップデートサーバー、データの流れの説明を追加		1. 判読性向上
2.	3.4.2、システムログ、アクセスログについて追記		2. 機能追加
3.	4.1、EDW プラットフォーム提供機能のため”設定画面へのユーザー認証”の項を削除		3. 判読性向上
4.	4.2、digital-wb.com のサーバー証明書を搭載しなくなったため該当分を削除		4. 仕様変更
5.	表 1 クラウドサービスとの通信 に機能追加されたシステムログアップロード用のホスト名を追加		5. 機能追加
6.	図 2 無線 LAN 機能概要図 で NAPT 機能 ON/OFF の図がデータの流れでないことを強調		6. 判読性向上

Revisi	日付	改定概要	作成者
1.0	2021/07	新規作成	
改訂内容			改訂理由

## Table of Contents

---

1	はじめに	4
1.1	セキュリティへの取組み	4
1.2	用語定義	4
2	システム概要	5
2.1	システム構成の要素	6
2.1.1	PC・スマートデバイス	6
2.1.2	eWhiteboard	6
2.1.3	リコー クラウドサービス	6
2.1.4	オンラインアップデートサーバー	6
3	システム全体のセキュリティ対策	7
3.1	稼働監視、障害監視、パフォーマンス監視	7
3.2	脆弱性情報の定期収集と対応	7
3.3	脆弱性診断と対応	7
3.4	ログ	7
3.4.1	eWhiteboard 用リコークラウド	7
3.4.2	eWhiteboard 本体	7
4	データのセキュリティ対策	9
4.1	データアクセス制御	9
4.1.1	ユーザー認証(eWhiteboard 本体)	9
4.1.2	ユーザー認証(eWhiteboard 用リコークラウド)	9
4.1.3	クライアント認証	9
4.2	データ管理(eWhiteboard 本体)	9
4.3	データ管理(eWhiteboard 用リコークラウド)	9
4.3.1	認証情報	9
4.3.2	文書情報	10
5	アクセス制御	11
5.1	アクセス制御	11
5.1.1	通信プロトコル	11
5.1.2	無線 LAN 機能と独自 DNS サーバー	12
5.1.3	アクセス制御(eWhiteboard 本体)	12
5.1.4	アクセス制御(eWhiteboard 用リコークラウド)	13
5.2	通信路の暗号化	13
5.2.1	通信路の暗号化(eWhiteboard 本体)	13
5.2.2	通信路の暗号化(eWhiteboard 用リコークラウド)	13
5.3	データセンター(eWhiteboard 用リコークラウド)のセキュリティ対策	13
6	商標	13

## 1 はじめに

本文書では、「RICOH eWhiteboard」(以下、eWhiteboard、本サービス)のセキュリティ情報の概要を説明します。

### 1.1 セキュリティへの取組み

リコーのセキュリティに対する取組みは、以下の URL から情報を取得することができます。本書は eWhiteboard 特有のセキュリティ情報のみを扱っています。

リコーのセキュリティ: <https://jp.ricoh.com/security/>

### 1.2 用語定義

本書では以下の定義に従って用語を利用します。

用語	定義	補足
Empowering Digital Workplaces (EDW) プラットフォーム	リコーが提供する、エッジデバイスとアプリケーションのためのクラウドサービス、プラットフォーム。Ricoch Smart Integration(RSI)とも呼ばれる。	

## 2 システム概要

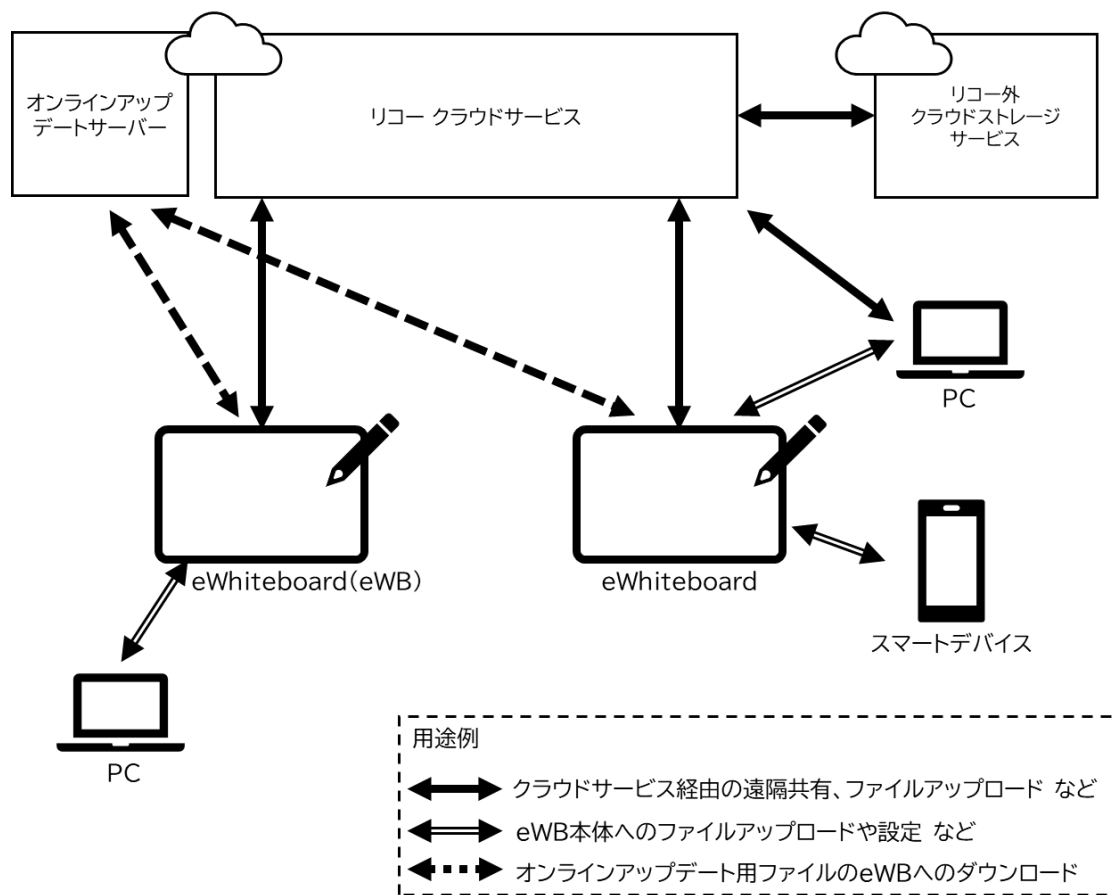


図 1 システム構成

eWhiteboard は電子ペーパーを用いたデジタル・ホワイトボードで、オフィスや現場などのワークプレイスでの紙・手書きのデジタル化をすることができます。

eWhiteboard に付属のペンを用いて絵や文字を書く、PC やスマートデバイスから eWhiteboard の画面を見ることができるといったことができるほか、リコークラウド(米国)やリコー外クラウドストレージサービスとつながることで遠隔地にある複数台の eWhiteboard で図面などを共有する、外部のオンラインストレージサービスにある文書を連携する、といったことができます。

## 2.1 システム構成の要素

### 2.1.1 PC・スマートデバイス

PC・スマートデバイスは、Web ブラウザーを用いて eWhiteboard の Web ページにアクセスして設定やファイルのアップロード/ダウンロードをする、リコークラウドの設定画面にアクセスしシェアクティベーションをする、リコー外クラウドストレージサービスにアクセスする、などのために用います。

### 2.1.2 eWhiteboard

PC・スマートデバイスの Web ブラウザーやペンを用いた操作の他、一部の機能はインターネットを介してリコークラウド(米国)と接続する必要があります。

### 2.1.3 リコー クラウドサービス

eWhiteboard 用のクラウドサービスは、リコーが提供する Empowering Digital Workplaces プラットフォーム(以下 EDW プラットフォーム)を利用して提供します。eWhiteboard へ認証・ファイル一覧取得/アップロード/ダウンロードなどの機能を提供するほか、クラウドストレージサービスと接続を行います。

### 2.1.4 オンラインアップデートサーバー

eWhiteboard は、アップデートに必要なデータを本サーバーからダウンロードします。本サーバーはリコーグループで管理しています。

## 3 システム全体のセキュリティ対策

### 3.1 稼働監視、障害監視、パフォーマンス監視

eWhiteboard 用リコークラウドの機能は 24 時間 365 日でネットワーク、サーバー、アプリケーションなどの稼働状況、パフォーマンスを監視しており、不具合が発生した場合には迅速な対応を行う体制となっています。またキャパシティ管理を行い、十分な可用性を確保しています。

### 3.2 脆弱性情報の定期収集と対応

脆弱性情報の収集と対応は、リコー社内で定められたプロセスに従って運用しています。

### 3.3 脆弱性診断と対応

eWhiteboard 用リコークラウドおよび eWhiteboard 本体の Web アプリケーション、ネットワーク機能や他の脆弱性については、リコーで定められた脆弱性調査ツールを 3 ヶ月に 1 回およびアップデートを実施する際に使用して、既知の脆弱性が残されていないことを確認しています。

### 3.4 ログ

#### 3.4.1 eWhiteboard 用リコークラウド

eWhiteboard から eWhiteboard 用リコークラウドへのアクセスログおよび操作ログを、サーバー内に保持しています。上記のログに含まれる情報はイベントの情報、テナント ID、デバイス ID、ユーザー ID、ファイル ID、ステータスや外部サービスとの通信結果や中間処理の実行結果があります。これらのログ情報は、サーバーに対して適切なアクセス制限を行うことで、社内外からの不正アクセスを防いでいます。

なお、個人情報(PIN コード、氏名、メールアドレス 等)および企業情報、業務データ(ファイル名、ファイル内容も含む 等)の情報に関しては、原則としてログへの出力を禁止しています。

#### 3.4.2 eWhiteboard 本体

##### システムログ

eWhiteboard 内のアプリケーションの状態、実行結果、IP アドレス、MAC アドレスや機器やネットワークの状態を本体に継続的に記録しており、電源を切っても情報が保持される領域に保存しています。eWhiteboard 内 Web ページの管理者設定からは eWhiteboard 内のアプリケーションのログを取得することができます。ダウンロードしたログは暗号化されており、リコーの限られたメンバーのみが参照できます。

##### システムログのクラウドアップロード機能

システムログをクラウドにアップロードする機能は二つあります。

- 一つは、本体に記録されているシステムログ全てを、eWhiteboard 本体の Web ページの操作で本体からリコークラウドにアップロードする機能です。アップロードされたデータは暗号化されていませんが、データの保存については「eWhiteboard 用リコークラウド」の項に記載したセキュリティ対策を実施し、リコーの限られたメンバーのみが参照します。
- もう一つは定期的に自動で eWhiteboard 本体がシステムログをアップロードする機能です。本体の Web ページで機能を OFF にすることができます。起動後定期的に、更新されたシステムログをアップロードします。ネットワークの不調や本体内部で実行エラーがあった場合でも、データの再送はしません。保存時の暗号化状態およびセキュリティ対策は一括でアップロードした場合と同様です。

なお、個人情報(PIN コード、氏名、メールアドレス 等)および企業情報、業務データ(ファイル名、ファイル内容も含む 等)の情報に関しては、システムログへの出力を禁止しています。

#### アクセスログ

eWhiteboard 本体のアクセスログも、本体の電源を切っても情報が保持される領域に保存されます。eWhiteboard の Web ページで記録を有効にすることで以下の情報が記録され、本体から PC などへのログのダウンロードや、本体からのログ削除をすることができます。ダウンロードしたログは暗号化されていないため、お客様が閲覧できます。

- 時刻
- ペン情報
- サインイン、サインアウト
- サインインユーザ識別情報
- クラウドからのダウンロード、クラウドへのアップロード
- クラウドとやりとりしたファイル名
- システム起動、シャットダウン



## 4 データのセキュリティ対策

### 4.1 データアクセス制御

#### 4.1.1 ユーザー認証(eWhiteboard 本体)

eWhiteboard の操作は本体画面および Web 画面から行います。  
本体「メンテナンス」機能と Web「管理者設定」ページにアクセスするには管理者パスワードが必要です。

#### 4.1.2 ユーザー認証(eWhiteboard 用リコークラウド)

##### 4.1.2.1 サービス利用へのユーザー認証

eWhiteboard から eWhiteboard 用リコークラウドを利用するための認証方式は、クライアント認証およびユーザコード認証(PIN 認証)の組み合わせとします。クライアント認証(所有)と PIN 認証(知識)の多要素になっています。

Web アプリから eWhiteboard 用リコークラウドを利用するための認証方式は、ID/パスワードによる認証です。

#### 4.1.3 クライアント認証

AWS IoT のクライアント証明書の「AWS IoT によって生成された X.509 証明書」を利用し、eWhiteboard 内に安全に保管します。

### 4.2 データ管理(eWhiteboard 本体)

eWhiteboard にアップロード・ダウンロードされた文書データ(画像含む)や管理者パスワードなどの認証情報、遠隔画面共有データなどの eWhiteboard 用のデータは、暗号化・ハッシュ化され保存されます。

オンラインアップデートファイルをダウンロードする際はサーバー証明書情報の確認およびファイルの改ざん検知を実施します。

### 4.3 データ管理(eWhiteboard 用リコークラウド)

#### 4.3.1 認証情報

本サービスで作成したユーザー情報は保存せずに、ステートレスなトークン認証をしています。

##### eWhiteboard からの認証

セッションを一時管理していますが、時間経過で自動削除する仕組みとなっています。なお、トークン情報に関しては、暗号化しています。

セッション情報の適切な破棄に関しては、以下の通りです。

- サインイン時に生成され、サインアウト時に破棄されます。
- 一定時間経過後に自動で破棄されます。
- セッション情報破棄時に、トークン情報も併せて破棄します。
- セッション情報以外に管理する機微データはありません。

##### Web アプリからの認証

トークンを一時管理しています。

トークン情報の適切な破棄に関しては、ログイン時に生成され、ログアウト時に破棄されます。

#### 4.3.2 文書情報

文書情報は一時管理していますが、時間経過で自動削除する仕組みとなっています。なお、文書情報に関しては、暗号化しています。

## 5 アクセス制御

### 5.1 アクセス制御

#### 5.1.1 通信プロトコル

インターネットを経由して eWhiteboard もしくは Web ブラウザがクラウドサービスを利用する際は、HTTPS/WSS プロトコルによりサーバーの正当性の確認がされ、通信は暗号化されます。通信先やホストは以下の通りです。

表 1 クラウドサービスとの通信

通信先	ホスト	ポート	プロトコル	TLS ver.
リコークラウドサービス	*-ats.iot.us-west-2.amazonaws.com	443	WSS	1.2 以上
	*.credentials.iot.us-west-2.amazonaws.com	443	HTTPS	1.2 以上
	riot-dwb-na.s3.amazonaws.com	443	HTTPS	1.2 以上
	api.na.smart-integration.ricoh.com	443	HTTPS	1.2 以上
	www.na.smart-integration.ricoh.com	443	HTTPS	1.2 以上
	api.na.rdata.ricoh.com	443	HTTPS	1.2 以上
	s3.ap-northeast-1.amazonaws.com	443	HTTPS	1.2 以上
	app.e-whiteboard.ricoh.com *1	443	HTTPS	1.2 以上
オンラインアップデートサーバー	auto-ds1.support-download.com	443	HTTPS	1.2 以上

- \*1:ユーザ利用する Web ブラウザからアクセスする際の通信先です。これ以外は eWhiteboard からアクセスします。
- クラウドサービスが提供される IP アドレスは公開していません。現在サービスを提供している IP アドレスにおいて、将来にわたってサービスが提供される保証はありません。

また eWhiteboard は IPv4 のみに対応しており、使用する TCP/UDP ポートは以下の通りです。

表 2 使用通信ポート一覧

ポート番号	説明
53/TCP, UDP	DNS、クエリ応答や管理者用ネットワークチェックツール
67/UDP	DHCP
68/UDP	DHCP
80/TCP	HTTP、PC/スマートデバイスの Web ブラウザーとの通信
123/TCP	NTP、時刻同期
443/TCP	HTTPS、PC/スマートデバイスの Web ブラウザーやリコークラウドとの通信
ICMPv4	管理者用ネットワークチェックツール/ping

### 5.1.2 無線 LAN 機能と独自 DNS サーバー

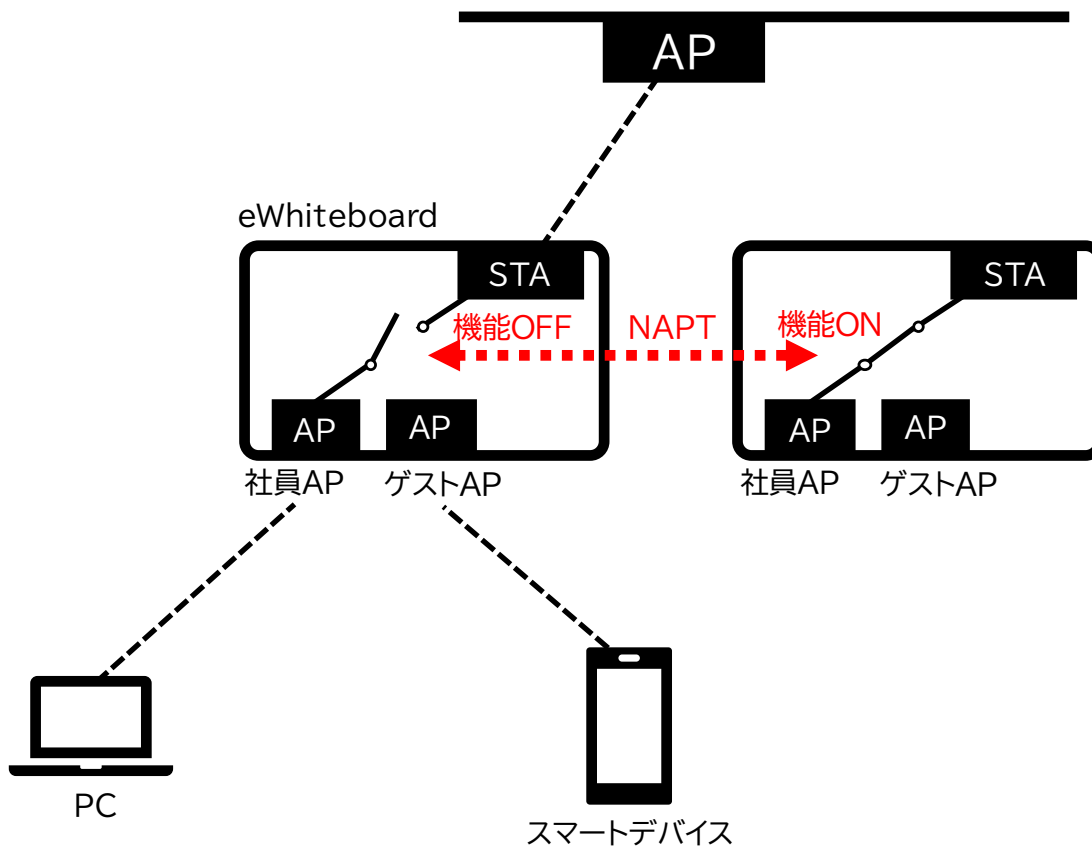


図 2 無線 LAN 機能概要図

eWhiteboard には 2 つの無線 LAN アクセスポイント(AP)機能、1 つの無線 LAN ステーション(STA)機能があります。AP には、AP 側のネットワークと STA 側のネットワークとを NAPT(Network Address Port Translation)機能によりつなぐことのできる社員 AP と、それができないゲスト AP とがあります。

なお、NAPT 機能の ON と OFF の切り替えは eWhiteboard の管理者用 Web ページから設定することができます。

また eWhiteboard の AP に接続された端末から「digital-wb.com」についての DNS クエリが出されると、eWhiteboard は自身の IP アドレスを返答します。これは上記端末から eWhiteboard の Web 画面にアクセスするときに使います。また eWhiteboard は Captive Portal 機能のため端末からの特定の URL についての DNS 問い合わせに応答します。

### 5.1.3 アクセス制御(eWhiteboard 本体)

管理者の認証は、4.1.1 に記載の内容で実施しています。また、本体画面からは文書ごとにロックコードが設定可能で、文書にアクセスするのに必要になります。

#### 5.1.4 アクセス制御(eWhiteboard 用リコークラウド)

##### 5.1.4.1 所有権に応じたアクセス制御

ユーザー認証は、4.1.2 に記載の内容で実施しています。ユーザーのアクセス方法は eWhiteboard および Web ページでの入力です。

##### 5.1.4.2 アクセス制御失敗時の記録

サービス利用時のエラーメッセージ表示に対応しています。

### 5.2 通信路の暗号化

#### 5.2.1 通信路の暗号化(eWhiteboard 本体)

eWhiteboard と eWhiteboard 用リコークラウドとの通信路(アプリケーションレイヤー)は上記の通り暗号化されています。

また、無線 LAN のレイヤーで対応している認証・暗号化方式は以下の通りです。

- AP
  - Open
  - WEP
  - WPA-PSK TKIP
  - WPA-PSK AES
  - WPA2-PSK TKIP
  - WPA2-PSK AES(デフォルト)
- STA
  - WPA/WPA2-PSK
  - WPA2-EAP-PEAP
  - WPA2-EAP-TLS

最後に、eWhiteboard 本体の Web ページへは eWhiteboard の STA 側ネットワークからは HTTP もしくは HTTPS でアクセスできるよう設定可能です。

#### 5.2.2 通信路の暗号化(eWhiteboard 用リコークラウド)

5.1.1 に記載の通り、通信路を暗号化しています。

### 5.3 データセンター(eWhiteboard 用リコークラウド)のセキュリティ対策

本サービスのサーバー群は、Amazon Web Services の上に構成されています。このデータセンターのセキュリティ対策は Amazon Web Services のセキュリティ対策によって行われています。

## 6 商標

- Amazon Web Services、“Powered by Amazon Web Services”ロゴ、[およびかかる資料で使用されるその他の AWS 商標]は、米国その他の諸国における、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。
- Wi-Fi, WPA, WPA2 は Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。

その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

これらは本書の説明および所有者の権利のために使用され、使用により所有者の権利を侵害するものではありません。